

「看護学教育質向上委員会」

1. 構成員

1) 委員

委員長：宮下光令（東北大学大学院）

副委員長：吉沢豊子（関西国際大学）

委員：落合亮太（筑波大学）、鎌倉やよい（日本看護系大学協議会）、川原千香子（帝京大学）、北川明（順天堂大学）、小池武嗣（聖隷クリストファー大学）、斉藤しのぶ（千葉大学大学院）、佐藤政枝（横浜市立大学）、中村博文（茨城県立医療大学）、西村礼子（東京医療保健大学）、野島敬祐（京都橘大学）、布施淳子（山形大学）、益田美津美（聖徳大学）、松田光信（大阪公立大学）、矢山壮（関西医科大学）

2. 趣旨

看護学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂が進んでいる現状を踏まえ、看護学教育の質保証や評価の仕組みを整えるために委員会内に DX 班、OSCE 班、実習班を設け、活動を行った。DX 班では「看護学教育 DX café」のサイトの利便性を高めるとともに広報のためのウェビナーを 2025 年 3 月 18 日に開催した。OSCE 班では看護実践能力評価基準検討委員会との協働により OSCE で評価する項目について検討している。実習班では看護学実習ガイドラインの改訂を目指して骨子を作成した。

3. 活動経過

1) DX 班の活動

COVID-19 感染拡大の影響により、全国の看護系大学では様々な工夫による教材開発や教育 DX の推進を迫られてきた。そこで日本看護系大学協議会（JANPU）看護学教育質向上委員会では 2021 年 8 月に DX 班を設け、2021 年度には看護学教育のデジタル化実装に向けたステップの整理、2022 年度には看護系大学教育に係る看護教員の DX 導入の実態やニーズ調査を行った。これらを踏まえ、2023 年度には JANPU のホームページに看護学教育 DX のために必要な情報や教材といった情報をえられるサイトである「看護学教育 DX café」を設置した。

2024 年度の DX 班の活動としては「看護学教育 DX café」をより会員が活用しやすいページにするための方略について検討した。まず、利用要項を作成しページ上にアップした。また、現在のページは登録されたデータを一方的に配信する形式になっており、情報を会員が投稿できる仕様になっていなかったため、DX ツール投稿のための仕組みを整備した。DX ツールの閲覧・使用は会員校限定としたが、DX ツールの投稿は非会員校等からも可能な仕組みとした。本ページは 2023 年度に作成されて以来、広報活動を行ってこなかったため、2025 年 3 月 18 日にウェビナー「看護学教育 DX 化で学習効果・効率を UP する-JANPU DX Café オープン！」を開催した。ウェビナーでは「看護学教育 DX café」の紹介とともに、DX 教材の事例として「デジタル模擬患者を用いたシミュレーション学修」「『Eko Studio』web アプリを使用した精神看護学実習の事前・事後学習のためのコンテンツ」「Virtual Patient を活用したクリティカルケア・シミュレーション学修」「CG（コンピュータグラフィックス）の活用について」などを紹介した。このウェビナーによって「看護学教育 DX café」が広く認知・利用され、また、教材の投稿などによってサイトの内容が充実することが見込まれる。

2) OSCE 班の活動

現在、看護学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂が進められている。看護学教育モデル・コ

ア・カリキュラム改訂案では、見学中心の臨地実習、看護実践能力の低下、基礎教育と継続教育の分断、評価基準の不明瞭さなどの課題から、看護学生と新人看護師の看護実践能力をつなぐ、シームレスな卒業時点での到達度が明示された。そのなかでも臨地実習は重要な役割を示している。そのため、臨地実習時点で看護学生が実践する機会を保证するには臨地実習前時点で看護学生がどのような能力を身につけているかを明示する必要がある。そのため、JANPU では看護実践能力評価基準検討委員会が中心となり、看護実践能力評価のための評価項目・基準・到達度の検討が進められてきた。

JANPU は臨地実習前時点での看護実践能力評価の方法として CBT (Computer Based Testing) と OSCE (Objective Structured Clinical Examination) について検討している。とくに CBT に関しては看護実践能力評価基準検討委員会が中心になり、何をどこまで CBT で評価するかについて検討が進んできた。本委員会は OSCE を主に担当することになり、看護実践能力評価基準検討委員会と合同会議をすることにより、CBT で評価する範囲と OSCE で評価する範囲について整理した。看護実践能力評価基準検討委員会からは看護学教育モデル・コア・カリキュラムのうち「CS：患者ケアのための臨床スキル (Clinical Skill)」のうち 12 項目（基本的な看護技術、日常生活行動を支援する技術）を OSCE の項目として提案された。本委員会ではこれらの項目で十分であるかも含めてその妥当性について議論している。最終的には医師の OSCE で使用されている医療系大学間共用試験実施評価機構による「診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度についての学修・評価項目」のような成果物の作成を目指している。

3) 実習班の活動

看護学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 6 年度改訂版）では基本的な考え方として看護学教育のコンピテンシー基盤型教育への転換が図られている。前述のとおり、看護学教育にとって臨地実習は重要なものであり、臨地実習に関しては 2020 年には大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会による「看護学実習ガイドライン」が発行され、利用されてきた。しかし、この看護学実習ガイドラインはコンピテンシー基盤型教育に基づいて作成されておらず、看護学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 6 年度改訂版）に準じているとは言えない。そこで、実習班では「看護学実習ガイドラインの改訂」を目的として作業を開始した。2024 年度の活動として、看護学実習ガイドライン改訂版の骨子案を作成した。この骨子案は以下のような構成になっている。

I. 看護学実習ガイドライン改訂版の趣旨

- 1) 看護学実習ガイドライン改訂版の位置づけ
 - (1) 臨地実習で身に着ける学生の資質・能力
 - (2) 参加型臨地実習
 - (3) 各領域別実習前の到達度と領域別実習後の到達度の設定
- 2) 看護学実習の目的
- 3) 大学・実習施設・学生の役割
 - (1) 大学の役割
 - (2) 実習施設の役割
 - (3) 学生の役割

II. 大学と実習施設との連携・協働体制の構築

- 1) 大学と実習施設との組織的体制作り
 - (1) 連携・協働体制の必要性
 - (2) 大学と実習施設の契約 項目は同じで、契約の方法について
- 2) 指導の体制作り
- 3) 看護学実習における倫理及び安全管理に関する調整
 - (1) 看護学実習における倫理（同意書の例文の提示を含む）

- (2) 看護学実習を安全に行うための体制作り（ハラスメント対策、感染対策、事故対策、災害時対策、ICT・情報リテラシーを含む）

Ⅲ. 看護学実習前の調整

- 1) 実習要項の作成
- 2) 実習前打ち合わせの設定と調整内容
- 3) 看護学実習へのレディネスの形成

Ⅳ. ケアへの参画における指導方法

- 1) 参加型実習を行うために

Ⅴ. 評価方法

4. 今後の課題

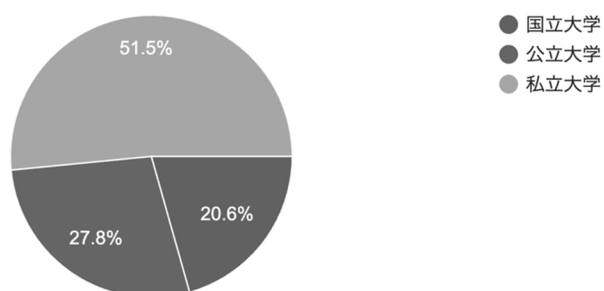
- 1) 「看護学教育 DX café」のウェブサイトの更新および会員校の情報交換の促進
- 2) 臨地実習前の看護実践能力評価方法としての OSCE の項目の策定および、評価基準の作成
- 3) 「看護学実習ガイドライン」の改訂

5. 資料

2025 年 3 月 18 日開催オンラインイベント「看護学教育 DX 化で学習効果・効率を UP する-JANPU DX Café オープン!-」アンケート結果

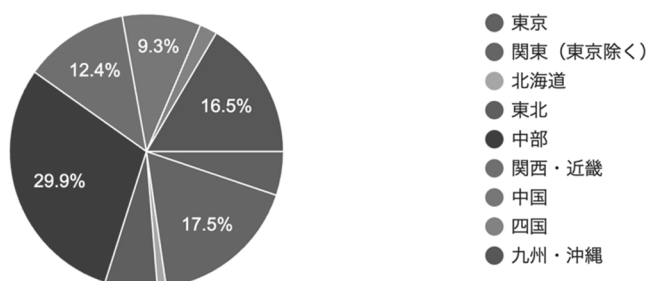
1.あなたのご所属について、該当するものを選択してください。

97 件の回答



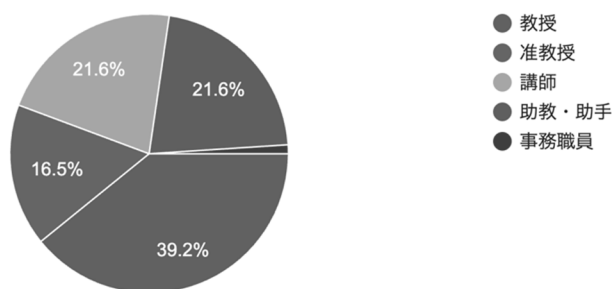
2.あなたのご所属の所在地について、該当するものを選択してください。

97 件の回答



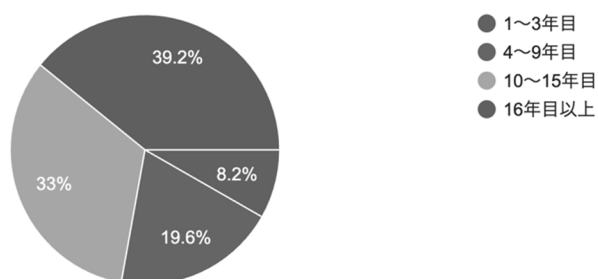
3.あなたの現在の職位について、該当するものを選択してください。

97 件の回答



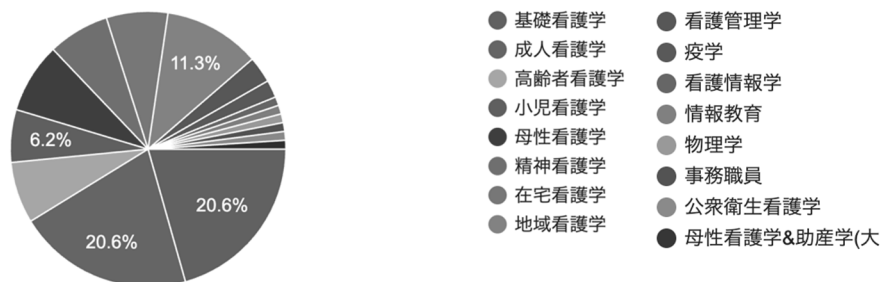
4.あなたの教員経験年数について、該当するものを選択してください。

97 件の回答



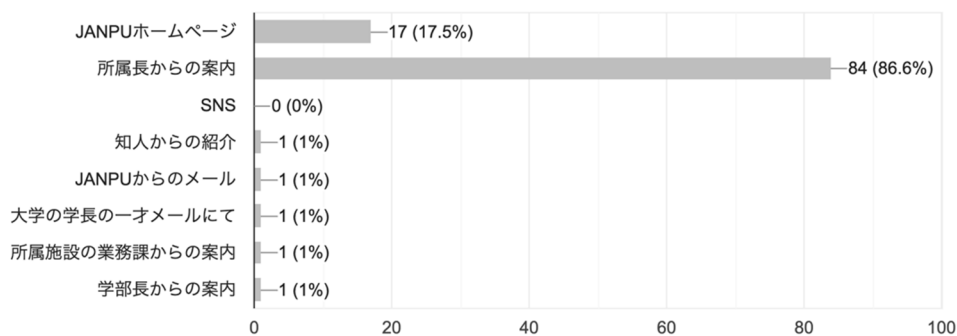
5.あなたの専門領域について、該当するものを選択してください。

97 件の回答



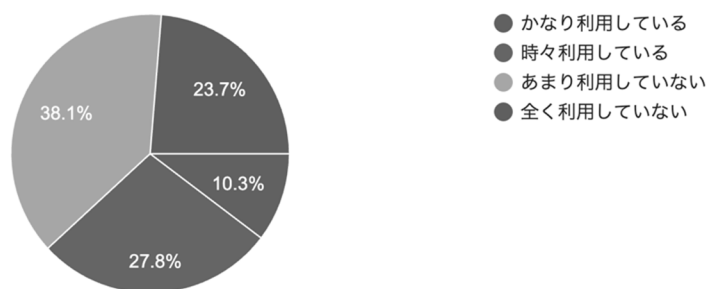
6.このイベントを知った媒体について、該当するものを選択してください（複数回答可）。

97 件の回答



7.あなたは、看護学教育のDX化のために、どの程度ICTコンテンツを利用していますか。

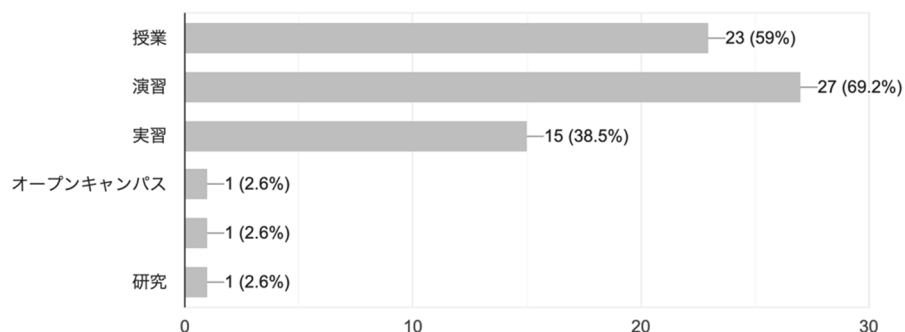
97 件の回答



8.

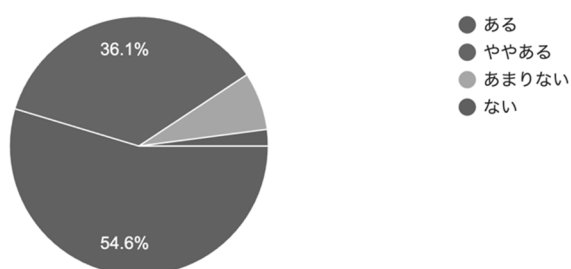
7で「かなり利用している」、「時々利用している...のようなことに利用していますか（複数回答可）。

39 件の回答



9.あなたは、看護学教育の DX 化のための ICT コンテンツの利活用について困難だと感じることはありますか（複数回答可）。

97 件の回答



10. 9.で「ある」、「ややある」と回答した方は、どのようなことに困難と感じますか。73 件の回答

1) 資金・コスト

- ・ 資金不足（費用・予算の確保が困難）
- ・ 費用対効果の不透明さ
- ・ 設備投資が必要（機材・ネット環境・ソフトウェア）

2) 技術・スキル不足

- ・ 教員・学生の ICT スキルに差がある
- ・ 操作が難しい
- ・ コンテンツ作成の知識・技術が不足
- ・ DX や ICT に関する情報が不足

3) 組織・人材の課題

- ・ 教員間での意識やスキルの差
- ・ 組織全体で取り組めていない
- ・ 導入のノウハウが不足
- ・ 技術的サポートがない
- ・ 外部専門家の協力が必要

4) 活用方法の不透明さ

- ・ どこから手をつけるべきかわからない
- ・ 具体的な活用イメージが持てない
- ・ 実際の教育効果が不明確
- ・ 既存の無料ソフトやオープンソースの活用が難しい
- ・ 小児看護や老年看護向けのコンテンツが不足

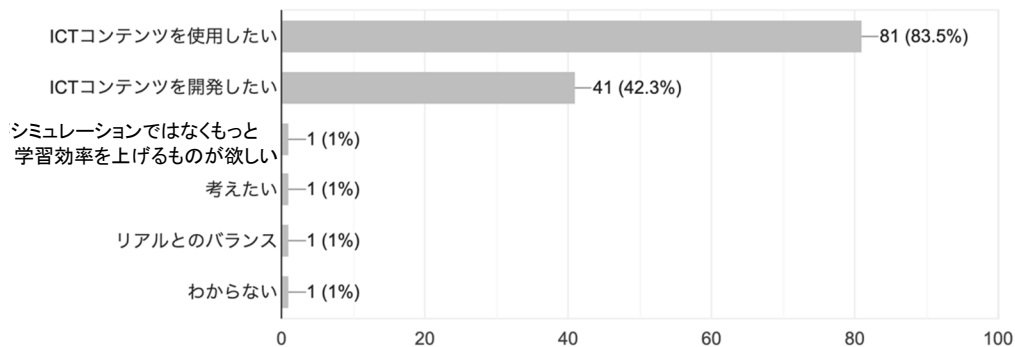
5) 環境・時間の問題

- ・ 設備やインフラ（ネット環境など）が整っていない
- ・ 作成や活用のための時間が確保できない
- ・ 学生の情報リテラシーに差があるため統一した活用が難しい

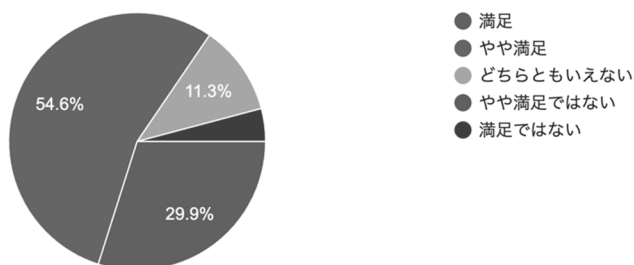
6) 抵抗感・文化的な課題

- ・ 教員の DX への意欲が低い
- ・ 伝統的な対人コミュニケーションが DX 化によって損なわれる懸念
- ・ ICT ツールに対する抵抗感
- ・ 属人化してしまう（活用する教員としない教員の差が大きい）

11.あなたは、看護学教育の DX 化のための ICT コンテンツについてどのようなニーズがありますか(複数回答可)。
97 件の回答

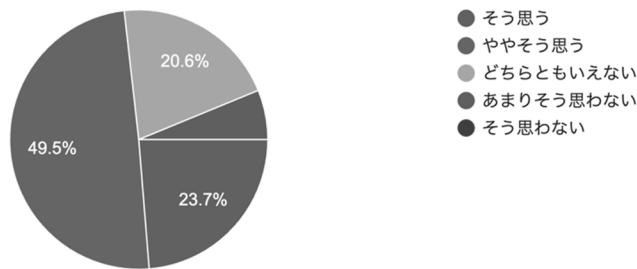


12.このイベントの満足度について、該当するものを選択してください。
97 件の回答



13.このイベントの内容をあなたの活動に活かそうですか。

97 件の回答



14.このイベントや「JANPU DX Café」サイトについてのご意見、ご感想を自由にお書きください。35 件の回答

1) 刺激的だった、興味が湧いた

- ・「DX に向けてモチベーションが上がりました。」
- ・「関心を持つきっかけになりました。」
- ・「動機づけになるイベントでした。」

2) 実際に活用したい、試したい

- ・「ぜひ拝見、活用させていただきます。」
- ・「素晴らしかったです。ぜひ試してみたいです。」
- ・「導入のハードルが高く感じるので、伴走してくれる人がいると助かる。」

3) 継続的な取り組みを希望

- ・「すばらしい取り組みで、さらに発展していくことを希望しています。」
- ・「継続的に進めていただきたい。」
- ・「また同様の企画をお願い出来ればと思います。」

4) 具体的な活用事例や演習の紹介が欲しい

- ・「実際の演習や授業をみたいです。」
- ・「何れの報告も導入のみで具体性がない。」
- ・「生成系 AI（特に ChatGPT）をベースとした計画・作成・実践の例を挙げてほしい。」
- ・「最初は、コンテンツが置かれているのかと思いましたが、説明を聞いて、これから作っていく場なのかなと思いました。」
- ・「本日はダイジェスト版での説明でしたが、フルで体験してみたいです。」

5) 導入のハードルが高いと感じる

- ・「何から始めたらいいかと悩むレベルなので、ChatGPT から始めたいと思った。」
- ・「気軽にコンタクトが取れるのであれば使いたいが、まだ勇気が出ません。」
- ・「操作が難しそう。」

6) 情報の提供方法を改善してほしい

- ・「DX Café のホームページがどこにあるのかわかりませんでした。」
- ・「用語がわかりにくいところがある。」
- ・「既存の有効なツールについて資料を配布していただけると助かります。」
- ・「本日の動画配信をお願いしたいです。」

◆ 今後の課題

アンケート結果より、看護学教育における DX 化を推進する課題として、資金の問題、個人の技術、スキル不足、組織・人材の問題、活用方法の不透明さ、時間の確保の困難さなどが挙げられた。これらのフィードバックより、本 DX 班の今後の対策、活動として、以下のような取り組みが必要と考えられる。

1) 実践的な活用例の紹介

- ・ 実際に導入した教員の具体的な事例や演習の紹介を強化する。
- ・ ChatGPT や DX ツールを活用した具体的なフローや事例を示す。

2) 導入のサポート

- ・ 初めての先生向けに「最初の一步」をまとめたガイドを作成する。
- ・ 伴走支援（メンター制度など）の仕組みを整える。

3) 情報発信の改善

- ・ DX Café の URL やアクセス方法を明示する。
- ・ よくある質問（FAQ）や用語解説を提供する。
- ・ 動画配信やアーカイブを提供し、後からでも学べるようにする。